
please sing

燐羽 晶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

please sing

【Nコード】

N9626N

【作者名】

燐羽 晶

【あらすじ】

聞こえない。

聞こえるよ。

もう何も…。

大丈夫。

僕がいるから。

please sing

暗闇の中、ぽつかりと白い穴が開いたような満月が、透き通った闇夜に浮いていた。

何をする訳でもなく、ふと思い立ったように単車を走らせている。

見上げた夜空の、月の高さを見て、もう随分遅い時間なのだと認識する。

そろそろ、帰ろう。

そう思つて帰路に着く。

4〜5時間だろうか。

長い間、単車を走らせていたので、帰りは近道をしようと、大通りから少し狭い路地に入る。

単車と、人1人が何とかすれ違う程の、狭い路地。

少し行くと、左側に、単車では入れないような、横道がある。

もう時間も遅い、誰も歩いてはいないと思うが、念の為、少し速度を落として走っていた。

暗い横道に差し掛かろうとした時、そこから黒い塊が、倒れるように出てきた。

「!？」

勢い良くハンドルを切り、塊の横をすり抜け、壁に激突する寸前で停止。

一瞬、何が起きたのか理解出来ず、兎に角、破裂しそうに鼓動が大きくなっている心臓を落ち着かせようと、深呼吸を数回繰り返す。

何とか落ち着くと、状況を把握するために、後ろを振り返った

その視線の先には、黒い塊。

よくよく目を凝らすと、前のめりに倒れた人影だった。

その額からは、赤い液体が流れ、アスファルトを染めている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9626n/>

please sing

2010年10月28日03時22分発行